

## 「クリエイターの話 ～ 私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 野口 真理

### 『心の音を聞きたくて』

人、自然、場に触れあう事がイメージの源泉となるように感じています。  
そしてそれらを想う心 遠音

2008年個展 (オーアーゲーハウス東京、ロビー展)

主催 / オーアーゲー・ドイツ東洋文化研究協会

個展の時、私の造形の基を再確認する気持ちでステートメントを準備しました。バックの背景は、私の故郷北国の郊外の冬風景の一部です。冬はマイナス 10 度～になることも珍しくない土地です。まれにスノーダストを見ることもできました。大気中の水蒸気が氷結してキラキラ舞う自然現象はとても美しいのですが、数分しか見ていただけです。とにかく極寒なのです。夏は 30 度を超える日もあります。

私の生家は、最寄り駅まで自転車や徒歩でいける環境で湿度が低く乾燥していて室内でラベンダーや紫陽花などを窓辺に釣っておくと自然放置でドライフラワーになり何年もそのままの見た目です。大好きな季節の推移でもあり、厳しい気候でもありました。ステートメントの文は友人の鈴木和夫氏とお話をして文章化しました。

#### “陶に込める” 温泉人：鈴木和夫

北の大地に生まれ育ち、自然のあるがままの姿が心に刻まれたことが、陶の作品やその創作活動に大きく影響しているように思えるのです。

作品は、一つの陶だけでも、また数個がお互いに関係あって、その空間そのものが醸し出す“気配”が作品となっています。

“鳥の目”で鳥瞰し全体を眺める作品であり、そこから舞い降りて、個としてのそれぞれの作品を“虫の目”で見つめることで、個性を発見する。

自然の中に存在するもののもつ形である、“曲線”、“ねじれ”、“吸い込まれ、噴出する”のを表現し、また土の中に渦や繋がりを見出すのです。

素材も滑らかなもの、ざらつしたもの、色もヒスイといった自然の持つ色、淡い緑、そして赤茶けた土の色。

こうした自然の中に実存する多様性をじっと見つめ、その多様な広がりや矛盾なく繋がりのある作品として表現する、こうした全体と個をバランス良く見つめ生きるべきと問いかける姿を感じたのです。

自然は多様であり、決して直線も均一さも存在しません。

自然の持つ多様性、“あるがままとして完成された姿”を、陶で表現することで、これからの社会のしくみ・しかけ、そして人としての生活空間のあるべき姿に対する確かなメッセージを作品に込めているのではないかと感じるのです。

“人間も自然の一部”という捉え方によって、これから先の持続可能な社会への提言であり、技術、経済優先社会のもたらすマイナス面に対する警鐘を鳴らしているようにも思えてくるのです。

<http://blog.livedoor.jp/ofuroudo/archives/51229287.html>



自然に生息している草木のように力強く、しなやかな造形をめざしています。多角的に見る、曲げる、崩して作品として自立できるように仕上げはくしめていきます。技法は日本古来からある縄文式土器と同じくくひも作りです。曲線、不定形な造形を制作するのに一番有効かつ自由な作陶へと導いてくれます。このように完成した作品は自然の中に置いた時、風景に溶け込んで一体化し反面主張しつつ陶でありながらその重たさや硬さから解放された優しい空間が生まれる事が夢です。空間デザインの視点から複数の作品で構成、作品素材や表現を多角化し制作意図を増幅できればと会場にこられた方が楽しめるよう、癒しの空間を提案しています。(野口真理)

2011年から2023年にかけて天王洲セントラルタワー・アートホール1Fの広い空間で展示が可能となり様々な展示を工夫する機会となりました。

(協力 中川特殊鋼株式会社)



同様に公開地区で雨天時は屋根を出すことができる野外の場：2016 年建築会館（東京港区芝）展示風景（あわい展）。来場者の為の保険をかけたり作品に結界を構成する勉強の場となりました。



第3回おたビエンナーレ 2013（太田市学習文化センター）参加

現代アートのグループ展（CAF ネビュラ展）で一緒にしていた森竹巳氏（現代美術家。当時筑波大学で教鞭）の企画で太田市で初顔合わせの展示に招致されました。魅力的な作品と初めての土地、人と会うことは制作するインスピレーションとなります



第3回  
おたビエンナーレ2013

会期：平成25年3月9日(日)～17日(日) 10時～18時  
会場：太田市学習文化センター 展示ギャラリー(入場無料)

井上 雅之 町田市	今成 輝史 太田市
梅澤千絵子 原田市	龜山 知英 群馬市
小林 達也 古河市	小松原洋志 群馬県
島田 毅 太田市	新富 正弘 太田市
津久井信幸 太田市	長島 正志 太田市
野口 真理 さいたま市	ばんばあづみ 太田市
平塚 良一 武蔵野市	馬込 次雄 太田市
三輪 述満 下仁田町	森 竹巳 太田市

◆協賛企業  
アーツ・エッセ・エッセ 出品作家による作品解説  
3月9日(日) 14:00～16:30

芸術家プロジェクト「地域に根付く芸術家の役割」(「地域に根付く芸術家の役割」)  
3月16日(日) 13:30～16:00  
太田市学習文化センター2F 第1会議室(定員100名)

主催：第1 群馬県美術館  
共催：第2 太田市  
協賛：第3 太田市  
協賛：第4 太田市  
協賛：第5 太田市  
協賛：第6 太田市  
協賛：第7 太田市  
協賛：第8 太田市

アートショップ「かいてはって つなごう 未来のカタチ」  
展示期間中(3月9日～17日)に開催にて説明

3/9 Sat. 2013  
3/17 Sun. 2013

2024年1月、私の地元にある埼玉県立美術館でのグループ展「凜の会」での展示【手前黒の立体作品。奥の壁面の陶板、金属版の壁面作品】来館者に立体作品に「やさしく座って周りの作品をご鑑賞ください」とキャプションをつけて展示したものです。来館の大人、子供に作品に近づき美術館でゆっくりと会場を楽しんでくださればと想像して展示しました。



## <野口真理 プロフィール>

---



北海道旭川市生まれ 現在さいたま市在住  
日産自動車（株）造形部、東洋ガラス（株）企画課でデザインの仕事に従事  
埼玉県立高等学校非常勤講師（美術）に従事  
現在さいたま市コミュニティーセンターにて陶芸講座を担当

2004年、2005年上野の森美術館大賞展出品（上野の森美術館）  
2007年新春公開映画「幸福な食卓」（松竹・原作瀬尾まいこ）作品協力  
2007年、2016年 新制作展 新作家賞。  
2017年 新制作協会会員推挙

グループ展：2002年～現在  
新制作展（東京都美術館、国立新美術館、京都市美術館、愛知県美術館ギャラリー）  
2005年、2007年、2009年～2023年 CAF ネビュラ展（埼玉県立近代美術館）。  
2022CAF 金沢展（金沢21世紀美術館）。  
2023年 CAF 秩父展（秩父美術館ギャラリー）。  
2024年 CAF 坂戸展（ギャラリー月桂樹）。  
2007年～2011年日本建築美術工芸協会主催「卯月展」（建築会館・港区芝）、2013年お  
おたビエンナーレ 2013 おおたビエンナーレ実行委員会主催（太田市学習センター）。  
2015年～2019年日本建築美術工芸協会主催「街なかミュゼ」出展。東京都、千葉県作  
品設置。  
2016年日本建築美術工芸協会主催「あわい展」（建築会館・港区芝）  
2002年～2018年チェリモヤ展（練馬区立美術館、文京シビック/東京、むろまちアートコー  
ト（京都市）/ 神奈川県民ホール/ 神戸原田の森美術館 / 埼玉県立近代美術館）。  
2009年飯田橋ラムラエントランスホール「写心と陶」展  
2011年国際陶芸教育交流展（東京芸術大学大学美術館陳列館）。病院とアート展（さいた  
ま市民医療センター内）作品収蔵。  
2012年～2017年小島孝子と女子美術大学同窓展（北アルプス展望美術館主催：安曇野）。  
2011年～2012年 four exhibition 天王洲セントラルタワーアートホール展（中川特殊鋼  
株式会社協賛）  
2016年芸術在線（東京中国文化センター / 北京）

個展：OAG 主催ドイツ文化会館ロビー展（OAG ハウス東京・赤坂）。

Bーギャラリー（西池袋）。書肆啓祐堂（高輪）。

ギャラリーカンディード、画廊るたん（銀座）。

三番町ギャラリー（川越）。

2010 年（伝統手摺木版高橋工房企画）高橋工房ギャラリー蒼（文京区水道）。

エルポエタ（さいたま市） 他。

新制作協会会員 日本美術家連盟会員 CAF.N協会会員 埼玉県美術家協会会員  
大宮美術家協会会員 さいたま市美術家協会会員 ザ・クリエイション・オブ・  
ジャパン会員